

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
穴吹国際みらい専門学校	平成18年12月26日	福島 圭吾	〒720-0801 広島県福山市入船町2-2-3 (電話) 084-973-3448				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人穴吹学園	昭和25年12月16日	穴吹 薫	〒720-0052 広島県福山市東町2-3-6 (電話) 084-931-3325				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士			
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	こども福祉教育学科	平成29年2月28日	-			
学科の目的	保育・幼児教育の知識を身に付け、こどもから保護者まで信頼される保育士、幼稚園教諭となる。						
認定年月日	平成26年3月31日						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3	昼間	2410	774	1124	488	0	24
時間							
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
75	47	0	6	16	24		
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 年2回の期末に科目等の評価を行い、年度末に通年の評価を行う			
長期休み	■夏季:7月から9月で校長が定めた機関 ■冬季:12月から1月で校長が定めた期間 ■春季:2月から4月で校長が定めた期間		卒業・進級 条件	年間出席率80%以上 全履修科目評価C以上 検定取得、修了、卒業制作合格 学費納入			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者への指導等の対応 担任からの電話連絡、文書送付		課外活動	■課外活動の種類 学園祭での実行委員会、学校説明会での来客対応、案内、 学校生活の紹介、説明等、クラブ活動 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)			
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 保育園等保育士、社会福祉法人等生活支援員		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	資格・検定名			
	■就職指導内容 就職部の専任担当者を中心に、クラス担任とも連携して指導する。 入学直後のオリエンテーション、就職希望調査、履歴書等作成指導、 就職活動及び個別ガイダンスの実施。			種別	受験者数	合格者数	
■卒業者数 8 人		■就職希望者数 8 人		■就職者数 8 人		■就職率 100 %	
■卒業者に占める就職者の割合		: 100 %		■その他			
(令和 2 年度卒業生に関する 令和3年5月1日 時点の情報)							
中途退学の 現状	■中途退学者 5 名 令和2年4月1日時点において、在学者44名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者39名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 学力不振、進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 学生の変化を早期把握(HRや授業参加状況、遅刻欠席対応)し、教員面談やカウンセラー面談、保護者面談を行い、心理面・健康面・学習面等の支援を行い、課題解決支援・通学意欲の継続を学校全体で取り組む。		■中退率 11.4 %				
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度:有 穴吹カレッジ特待生制度、高資格・検定取得者特待制度、穴吹カレッジ高校生デザイン大賞特待生制度、在校生・卒業生の親族入学優遇制度、家賃支援制度、遠方奨学生制度、穴吹カレッジ公務員特待生授業料免除制度。 ■専門実践教育訓練給付:非給付対象						
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:無						
当該学科の ホームページ URL	https://web.anabuki-net.ne.jp/aif/course/						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

常に業界の最新の技術動向に対応できるスキルを習得できるよう、企業等の意見、情報収集を定期的に行い、教材、授業方法等について工夫・改善を実施する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

校長を教育課程編成委員長とし、他の委員にて協議した結果の最終判断者とする。

副校長は教育課程編成委員の副委員長として委員長を補佐する。

その他の委員は、自由な立場で学科、学校の教育活動に対する提言、意見を述べる事ができる。

教育課程編成委員会ですとめられた答申は、教務部への提言、検討を経て、設備投資や新規採用が伴う案件は理事会で諮られ、審議され、採決されたものは改善活動へとつながる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
熊原 得也	(公社)広島県私立幼稚園連盟 理事 総務委員長	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年間)	①
難波 史朗	社会福祉法人福美会 つなぎ保育園 理事長	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年間)	③
村上 主典	あなかれほいくえん福山 園長	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年間)	③
福島 圭吾	穴吹国際みらい専門学校 校長	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年間)	
信岡 誠三	穴吹国際みらい専門学校 副校長	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年間)	
壽福 英尚	穴吹国際みらい専門学校 教務部長	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年間)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年に2回を必須とし、その他、必要に応じて臨時に開催する。開催時期:10月、3月。

(開催日時(実績))

第1回 令和2年10月20日(火)17:00～18:30

第2回 令和3年3月16日(火)14:00～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

実施カリキュラム、教育内容について、業界の動向や保育士・幼稚園教諭に求められるニーズを鑑みた内容であるかどうか、また、業界に求められる人材像に基づく、新人保育士・幼稚園教諭の課題と専門分野教育に関することについて意見交換を行った。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等から講師派遣や専門科目における教授内容や授業方法について助言、指導を受け、より実践的、専門的な内容を提供する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

保育園、幼稚園、施設にて観察実習、参加実習、責任実習(部分実習・全日実習)の形態で各2週間、施設は10日間の実習を実施。実習中は実習日誌及び責任実習については指導案を提出、実習態度、保育技術、保育の立案や記録などで実習先が評価を出す。提出された評価をもとに学校が総合的に成績を付ける。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
保育実習Ⅰ	保育園にて実習を行い、幼児教育に関わる理論と実践を体験的に統合していく。児童福祉施設にて実習を行い、養護を実践する。	社会福祉法人福美会 つなぎ保育園、社会福祉法人鏡福祉会 あおばこども園、社会福祉法人 一れつ会 しんぷおにい 等
保育実習Ⅱ	保育園にて、現場ならではの教育・養護技術を学び、保育士としての意欲を高める。	社会福祉法人幸栄福祉会 草戸こども園、社会福祉法人昌和福祉会 せんだの森、社会福祉法人MONDEN会 ゆめはうす認定こども園 等
保育実習Ⅲ	保育園以外の児童福祉施設にて、現場ならではの教育・養護技術を学び、保育士としての意欲を高める。児童福祉施設にて、現場ならではの養護技術を学び、保育士としての意欲を高める。	社会福祉法人あづみの森 第2あづみ園、社会福祉法人こぶしの村福祉会 児童発達支援センターひかり園 等
教育実習	幼稚園にて、現場ならではの教育技術を学び、幼稚園教諭としての意欲を高める。	学校法人光耀学園 かやのみ幼稚園、学校法人みのる学園 いちご幼稚園 等

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員研修規程にて定められている指導力アップのための研修と専門的・技術的なスキルを習得する研修をそれぞれの現状の修得状況に合わせ、年度当初に立てる研修計画に基づき予算化し、組織的、計画的に遂行していく。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

都市圏から特別講師を招聘し、保育分野の研修を複数回行う予定であったが、コロナウィルスの感染拡大により、全ての専門分野研修が実施見送りとなった。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「ルーブリック評価研修」
 期間 令和2年9月7日(月)
 対象 学科担当教員
 講師 元高校教諭 村上悦雄 氏
 内容 ルーブリック評価の基本理解と評価表の作成演習

研修名「社会人基礎講座研修」
 期間 令和3年3月18日(木)～19日(金)
 対象 学科担当教員
 講師 学舎「森ゼミ」代表 森吉弘 氏
 内容 就職指導における学生の指導方法

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

教授内容を就職先の業務内容に一致させ、また、教員の知見を広げるための研修等に年間を通して学科・科目担当教員を参加させる。また連携先および地元の有力企業より講師を派遣していただき、専門分野に関する講義・講評を実施する予定である。

② 指導力の修得・向上のための研修等

全国専門学校教育研究会および、穴吹教育総合研究所が企画する研修を中心に、次に挙げるテーマを優先して参加させる。
 「退学防止とクラス運営」「学生モチベーションとセルフコーチング」「アクティブラーニング」「キャリアサポート」
 ※対象はクラス担任、学科担当教員

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

- ① 関係者ならではの視点で具体的かつ実践的な評価を受ける
- ② 自己点検評価の適正化、妥当性を客観的に評価する
- ③ 結果として、職業に必要な実践的かつ、専門的な能力がより習得できる改善計画を立案し、PDCAサイクルを回し続ける

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学生等に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか 教職員に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか 学外に対して教育理念等を明文化し、公表しているか 各就業期間における教育目的、教育目標、教育計画が文書化され提示されているか
(2) 学校運営	理事会が定期的開催されているか 評議員会が定期的開催されているか 運営会議が定期的開催されているか 人事規程が文書化されているか 決裁規程が文書化されているか 個人情報保護規定が文書化されているか
(3) 教育活動	学校の年間スケジュールはあるか シラバスあるいは講義要項等が作成されているか 学生によるアンケート等にて授業評価が定期的に行われているか 結果に基づく教育面接を実施しているか 結果に基づく授業観察を実施しているか 結果に基づく教育のレポート、改善計画等が作成されているか 授業改善のための組織的取り組みが行われているか キャリア教育などが行われているか
(4) 学修成果	学生の就職に対する目標を設定したか 資格・検定・コンペに関する目標を設定したか 退学率の目標を設定しているか 卒業生の進路、就職先等を公表しているか
(5) 学生支援	進路、就職に関する支援体制は整備されているか 学生相談に関する支援体制は整備されているか 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか 課外活動に対する支援体制は整備されているか 卒業生への支援体制はあるか
(6) 教育環境	学校生活におけるリスクマネジメントとして保険に加入しているか 防災・防犯設備が整備、点検されているか 施設、設備の保守・点検が定期的に行われているか
(7) 学生の受入れ募集	学校案内等には育成人材像が明示されているか 学校案内等には目指す資格・検定・コンペが明示されているか 学校案内等には学費、教材費等が明示されているか 入学に関する問い合わせ等には適切に対応できる体制ができているか
(8) 財務	年度予算、中期計画は策定されているか 予算は計画に従って妥当に執行され、定期的に確認されているか 会計監査体制のルールが明確化されているか 会計監査の結果報告が文書等で明確化されているか
(9) 法令等の遵守	自己点検・評価を適正に実施運用するためのルールが文書化されているか 自己点検・評価報告書があるか 自己点検・評価報告書が公表されているか
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

以下の項目について、資料を基に状況を説明し、各委員より頂いた意見を参考に改善を図る。

- ・学生動向
- ・自己評価報告書
- ・保護者アンケート
- ・検定取得状況
- ・内定状況
- ・その他

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
辻 芳子	社会福祉法人幸栄福祉会 幼保連携認定こども園 草戸こども園 理事長・園長	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年間)	企業等委員
高橋 知恵	(有)クリエイティブ・ワイズ	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年間)	企業等委員
和田 愛加	(竹尋誠和保育園)	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年間)	卒業生代表委員
松木 鈴	(ユーベルグループ)	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年間)	卒業生代表委員
田島 建彦		令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年間)	元高校関係委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページより8月頃公開

<https://web.anabuki-net.ne.jp/data/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育に関わる情報について原則、公開する
定期的に更新し、最新の情報を提供しよう努める
情報の提供に際してはインターネットでの提供を基本とする
統計的な情報については算定方法など根拠となる情報も同時に提供する
個人情報の扱いに留意し、特定の個人が特定できない情報として提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校名、所在地、学校の沿革、歴史 学校の教育、人材養成の目標及び教育指導計画 経営方針
(2) 各学科等の教育	入学に関する受け入れの方針及び入学者数、収容定員、在学学生数、 カリキュラム、時間割、年間の授業計画 進級・卒業の要件 資格取得、検定試験合格等の実績 卒業者数、卒業後の進路
(3) 教職員	教職員数 教職員の組織、教員の専門性

(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況 実習・実技等の取り組み状況 就学支援等への取り組み支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況 課外活動(部活動、サークル活動、ボランティア活動)
(6) 学生の生活支援	学生支援の取り組み状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い 活用できる経済的支援措置の内容等
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9) 学校評価	自己評価、学校関係評価の結果 評価結果を踏まえた改善方法
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	
※(10)及び(11)については任意記載。	
(3) 情報提供方法 ホームページにて公開 https://web.anabuki-net.ne.jp/data/	

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども福祉教育学科) 2021年度生															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		日本国憲法	日本国憲法の全体的な枠組みを体系的に理解する。	1後	30	2	○			○		○		
2	○		情報処理入門Ⅰ	コンピューターの発達過程や仕組み、操作方法などを学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
3	○		英会話Ⅰ	日常英会話と保育現場で役立つ実践的な英語を学ぶ。	1前	30	2		○		○			○	
4	○		健康科学	スポーツ活動との関連の中で健康や体力に関する知識や関心を高める。	1前	16	1	○			○			○	
5	○		生涯スポーツ	スポーツ技能の向上を中核目標としながら、集団的活動を重視しながら、実践的な思考サイクルを習得する。	1後	24	1			○	○			○	
6	○		保育原理	保育の思想・制度の発達の概念を通して、保育に関する基礎的な知識を培い、保育の本質を探究する。	2前	30	2	○			○		○		
7	○		教育原理	教育の本質と意義を理解し、基礎的な概念と知識を習得する。	1前	30	2	○			○		○		
8	○		子ども家庭福祉	子ども家庭福祉の基礎、援助技術・方法の基本的知識の理解を深める。	2前	30	2	○			○			○	
9	○		社会福祉	保育士に必要な社会福祉の基本的な事項、援助技術の基礎を修得する。	1前	30	2	○			○		○		
10	○		子ども家庭支援論	子育て家庭への援助の必要性とその方法を理解する。	2前	30	2	○			○			○	
11	○		社会的養護Ⅰ	社会的養護の基本的なあり方を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
12	○		教職概論	保育士の仕事について探求し、現在保育士に求められているものを学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		

13	○		保育の心理学	乳幼児の発達と心理学、援助について学ぶ。	2前	30	2	○			○			○
14	○		子ども家庭支援の心理学	家庭支援を受けている時の子どもと親の心理と家庭支援の方法を理解する。	2後	30	2	○			○			○
15	○		教育心理学	子どもの発達を理解し、保育における心理学について学ぶ。	1後	16	1	○			○			○
16	○		子どもの保健	小児の心身の発達、疾病、障害などの医学的知識を深め、その予防や取り扱いの方法を習得する。	2前	30	2	○			○			○
17	○		子どもの食と栄養	栄養の基礎知識を踏まえ、小児期の発達段階に応じた栄養法、食育の重要性を学ぶ。調理実習も行う。	2前	30	2	○			○			○
18	○		教育課程総論	幼稚園教育課程について学び、教育計画編成の基礎的な力を養う。	1前	30	2	○			○			○
19	○		保育内容総論	保育所保育指針に基づく保育の基本および保育内容の理解を学ぶ。	1前	16	1	○			○			○
20	○		健康(指導法)	教育要領・保育指針の領域『健康』について実践的に学ぶ。	1前	16	1	○			○			○
21	○		人間関係(指導法)	教育要領・保育指針の領域『人間関係』について実践的に学ぶ。	1前	16	1	○			○			○
22	○		環境(指導法)	教育要領・保育指針の領域『環境』について実践的に学ぶ。	1前	16	1	○			○			○
23	○		言葉(指導法)	教育要領・保育指針の領域『言葉』について実践的に学ぶ。	1前	16	1	○			○			○
24	○		造形表現(指導法)	幼児の造形的発達の理解と、幼児の表現遊びについて実践的造形活動を通じて学ぶ。	1前	16	1	○			○			○
25	○		幼児と音楽表現	幼児教育に必要な音楽技術を習得する。	1前後	112	7	○			○			○
26	○		幼児と造形表現	教育要領・保育指針の幼児の表現遊びについて理論的に学ぶ。	2前	16	1	○			○			○
27	○		幼児と健康	教育要領・保育指針の領域『健康』について理論的に学ぶ。	2前	16	1	○			○			○

28	○		幼児と言葉	子どもの情操教育に重要な絵本や紙芝居について学びます。	1 前	16	1		○		○		○				
29	○		乳児保育Ⅰ	3歳未満児の成長発達と保育内容、保育の方法を学習する。	3 前	30	2	○			○		○				
30	○		乳児保育Ⅱ	3歳未満児の保育内容、保育の方法を実践的に学習する。	3 前	16	1		○		○		○				
31	○		子どもの健康と安全	保育者として必要な緊急時の応急処置法などを学ぶ。(救急講習受講)	3 前	16	1		○		○						○
32	○		障害児保育	障害児の発達と保育について学ぶ。	2 前	30	2		○		○						○
33	○		社会的養護Ⅱ	社会的養護の知識と理解を深め、実践的内容を学ぶ。	2 前	16	1		○		○						○
34	○		子育て支援	子育て支援の意義と原則、実際を学び、内容や方法を理解する。	2 前	16	1		○		○						○
35	○		保育・教職実践演習	実習の振り返りおよび課題の追及を行う。また、さらに研究を深めたいテーマについて研究発表を行う。	3 前	30	2		○		○		○				
36	○		教育方法論	保育者という職務のあり方の本質的な理解を深める。実践的教育方法について学ぶ。	1 後	30	2	○			○						○
37	○		幼児の心理学	子どもの発達を理解し、保育における幼児の心理について学ぶ。	1 後	16	1	○			○						○
38	○		音楽表現技術	幼児教育に必要な音楽技術の習得を深める。	2 前後	60	4		○		○						○
39	○		音楽表現(指導法)	幼児の音楽遊びについて実践的表現活動を通じて学ぶ。	1 後	16	1		○		○						○
40	○		劇あそび(指導法)	幼児の劇遊びについて実践的活動を通じて学ぶ。	1 後	16	1		○		○						○
41	○		幼児と人間関係	教育要領・保育指針の領域『人間関係』について理論的に学ぶ。	1 後	16	1	○			○						○
42	○		幼児と環境	教育要領・保育指針の領域『環境』について理論的に学ぶ。	1 後	16	1	○			○						○

43	○		造形表現Ⅱ	幼児教育者に必要とされる造形に関する基礎知識と表現技術を学ぶ。	1 前	16	1		○	○	○			
44	○		図画工作Ⅱ	幼児教育者に必要とされる美術、造形に関する基礎知識を学ぶ。	3 前	16	1		○	○	○			
45	○		音楽（理論）	音楽理論の基礎を学ぶ。	1 前後	50	3		○	○			○	
46	○		教育相談	カウンセリングの基礎知識を学び、教育現場での基本的援助の方法を学ぶ。	2 前	30	2	○		○				○
47	○		音楽表現Ⅱ	幼児の音楽表現遊びについて実践的身体表現活動を通じて学ぶ。	3 後	16	1		○	○				○
48	○		ピアノ実習	幼児教育に必要な音楽技術の習得や資質の向上を目指し学習する。	3 前後	30	2		○	○				○
49	○		声楽	発声法の基本と読譜力をつけ、音程、リズム、歌唱による音楽表現を習得する。	2 前	16	1		○	○				○
50	○		保育演習Ⅰ	幼児教育の実践的技術を習得する。（劇遊びなど）	1 後	46	3		○	○			○	
51	○		保育演習Ⅱ	幼児教育の実践的技術を習得する。（オペレッタなど）	3 前後	90	6		○	○			○	
52	○		保育演習Ⅲ	幼児教育の実践的技術を習得する。（造形表現 製作など）	3 前後	60	4		○	○			○	
53	○		こども環境管理士	幼児を取り巻く自然環境などについて学び、検定の合格を目指す。	3 後	40	2	○		○			○	
54	○		幼児体育指導者検定	幼児対象の体育指導者検定の合格を目指す。	3 前	16	1		○	○			○	
55	○		ボランティア実習（保・幼）	ボランティア実習を通じて 実践的技術を習得する。	1 後・2 前後・3 前	120	8			○	○		○	○
56	○		教育実習事前事後指導	実習を円滑に行うために必要な知識・意欲を習得する。	1 後	16	1		○	○			○	
57	○		保育実習事前事後指導Ⅰ（保育所）	実習を行うために必要な実践的技術を学ぶ。また、実習の事前準備を行う。	2 前	8	1		○	○			○	

58	○		保育実習事前事後指導Ⅰ（施設）	実習を行うために必要な学習をする。また、実習の事前準備を行う。	2 前	8	1		○	○	○							
59	○		保育実習事前事後指導Ⅱ	実習を円滑に行うために必要な知識を習得すると共に、実習の準備を行う。	3 前	8	1		○	○	○							
60	○		保育実習事前事後指導Ⅲ	実習を円滑に行うために必要な知識を習得すると共に、実習の準備を行う。	3 前	*1	*8		○	○	○							
61	○		教育実習①	幼稚園にて実習を行い、幼児教育に関わる理論と実践を体験的に統合していく。	2 前	80	2		○	○						○	○	
62	○		教育実習②	幼稚園にて、現場ならではの教育技術を学び、幼稚園教諭としての意欲を高める。	3 前	80	2		○	○						○	○	
63	○		保育実習Ⅰ（保育所）	保育園にて実習を行い、保育に関わる理論と実践を体験的に統合していく。	2 後	80	2		○	○						○	○	
64	○		保育実習Ⅰ（施設）	児童福祉施設にて実習を行い、養護を実践する。	2 後	80	2		○	○						○	○	
65	○		保育実習Ⅱ	保育園にて、現場ならではの保育技術を学び、保育士としての意欲を高める。	3 前	80	2		○	○						○	○	
66	○		保育実習Ⅲ	児童福祉施設にて、現場ならではの養護技術を学び、保育士としての意欲を高める。	3 前	*2	*80		○	○						○	○	
67	○		PC実習Ⅰ	パソコン操作の基礎知識、技能の習得。 （Word）	2 後	60	4		○	○						○		
68	○		PC実習Ⅱ	パソコン操作の基礎知識、技能の習得。 （ホームページ作成）	3 後	30	2		○	○						○		
69	○		PC実習Ⅲ	パソコン操作の基礎知識、技能の習得。（PV作成）	3 後	30	2		○	○						○		
70	○		PC実習Ⅳ	パソコン操作の基礎知識、技能の習得。 （ワープロ検定、パワーポイント）	3 後	30	2		○	○						○		
71	○		ビジネス文書Ⅰ	文書作成技能の基本を身につけ、普通の文書を正しく理解し、作成する。	3 後	30	2	○		○						○		
72	○		一般常識	採用試験対策	2 後	20	1	○		○						○		

73	○		漢字検定	漢字検定の合格を目指す。	3 前後	30	2			○	○	○		
74	○		社会人基礎講座Ⅰ	就職活動・社会人準備	1 前後	30	2	○			○	○		
75	○		社会人基礎講座Ⅱ	就職活動・社会人準備	2 前後	30	2	○			○	○		
76	○		社会人基礎講座Ⅲ	就職活動・社会人準備（森ゼミ）	2 後	30	2	○			○	○		
77	○		社会人基礎講座Ⅳ	就職活動・社会人準備（森ゼミ）	3 前	30	2	○			○	○		
78	○		社会人基礎講座Ⅴ	就職活動・社会人準備	3 後	20	1	○			○	○		
合計						78科目			2410単位時間（140単位）					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件…年間出席率80%以上、全履修科目評価C以上、指定する検定取得 履修方法…全科目必須にてクラス単位での履修 (留意事項)	1 学年の学期区分	2期	
	1 学期の授業期間	15週	

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。